



巻 頭 言

川崎医療福祉大学

学 長 江 草 安 彦

川崎医療福祉学会誌第1巻第1号の刊行にあたり、誌上をかりて、ご挨拶を申し上げます。

川崎医療福祉大学の開学後、わずかに半年が経過した今日、内容のきわめて優れた学会誌を刊行することができたことを、関係者として此の上ない喜びとするところです。本学のめざす医療福祉の理念の集約ないしは象徴をみる思いがする一方、本学の研究と教育が両輪となって順調に始動していることを感じるのであります。

さて、学校法人川崎学園は1970年、川崎医科大学を創設し、時代の求める医の倫理に目覚めた、有能な医師の育成をめざしました。引き続き、川崎医療短期大学、川崎リハビリテーション学院を設立し、医学・医療教育を総合的に展開してきました。人間中心の医学教育と医療の理念に国の内外から熱い視線がむけられたのは言うまでもありません。その間、川崎祐宣学園長は川崎医科大学創設後、間もなく、「医療福祉」を医学部のカリキュラムに加え、生活者としての患者について、「全人間的視点に立ち、接し、援助し、医療にあたる」という姿勢の必要性を指摘されました。私は、この「医療福祉」を開講以来、担当させていただきました。

川崎学園十年誌に「医療と福祉のかかわりを求めた医療福祉論が医療福祉学に成熟するのは何時のことであろうか、地道に努めたいものである。」と、私の心中を記した記憶があります。さらに十年の後、今日、川崎医療福祉大学の創設として結実し、医療福祉学の体系化をめざすようになったことを喜ぶものです。

総合科学としての医療福祉学の教育・研究をめざして、本学の2学部6学科を擁して発足しましたが、それぞれの学部、学科の教員は、教育においても研究においても学部、学科の間の隔壁を取りのぞき、その運営にあたるよう心がけたいものであります。研究センターの利用等によるプロジェクト研究が軌道にのるならば、研究を介しての教員の知的交流は、総合科学としての医療福祉学の充実に大きく影響を与えるものと期待をしています。

昔から、裾野が広くなければ、山頂は高くないと言われていますが、第1巻第1号に掲載されている論文を拝見しますと、裾野はきわめて広く、本学及び本学会誌の前途の洋々たるものを感じる次第です。ご承知のように、川崎医療福祉学会は本学教職員を中心に構成されるものですが、川崎学園内外の関心と同じくする方々にも参加していただいています。本学会誌が交流の場として、医療福祉・ヘルスサイエンスのさらなる発展に役立つことを祈念しています。

最後になりましたが、編集の労を惜しまれなかった緒方編集委員長をはじめ、編集委員の諸先生方に感謝を申し上げて、ご挨拶といたします。